【公開講演会】

「アウシュヴィッツ」で起きたこと～なぜ今も語りつぐ必要があるのか～

2012 年 4 月 12 日（木）13：20～14：50
名古屋キャンパス白鳥学舎翼館クラインホール
【参加者　300 名】

【講師】中谷剛氏
ポーランド国立オシフィエンチム博物館（国立アウシュヴィッツ博物館）唯一の日本語公式ガイド、通訳・翻訳家（日本語・ポーランド語）。1991 年よりポーランドに移住。1997 年オシフィエンチム博物館公式ガイド資格を取得。現在、ポーランド共和国オシフィエンチム(旧アウシュヴィツ)市在住。

【開会挨拶（木船久雄学長）】
地域といっしょに成長していくことを目指している本学が、今、命、人間とはと考えるタイミングにある。人生の機微、生きるとはどういうことかを考える機会にして欲しい。

【講演会の趣旨説明（家本博一地域連携センター長）】
本学は昨年からポーランド・スタディツアーを開催。学生と一緒にポーランドを訪れた際、中谷氏にガイドをお願いした。日本から１万キロ離れているポーランドの出来事から自分たちの命、これからの人生を考えるきっかけにするため講演会を開催した。

【公開講演会・要旨】
冒頭で、中谷氏は、参加者を前に「立ち向かうには厄介なテーマに、こんなにたくさんの人たちに足を運んでもらい、どうして？　と問いかけたい気持ちです」と述べた。
ドイツは、政治犯や社会で危ない人たちを収容するための強制収容所であったが、その後、当時ヨーロッパにいた１０００万人のユダヤ人をよそ者とみなし、自分たちの職を奪い生活を脅かすよそ者として強制収容し、アウシュヴィッツでは 100 万人が犠牲になった。
現在、アウシュヴィッツへの訪問者は 2001 年 46 万人だったものが 2011 年には 140 万人と 3 倍に増えている。増えた要因は①６０年経たないとアウシュヴィッツの話ができなかった。②話せない状況にあった。もしかしたら自分たちも加担してきたのではないかと、ようやく６０年経って真実と向き合うことができるようになり、考えるための材料としてアウシュヴィッツを使い

始めたからだ。選挙で選ばれた国会議員の一人であったヒットラーは、300 人中 100 人と３分の１の支持しかなかった。そこに６０人が加わり過半数ギリギリだったものが、強制収容所をつくりユダヤ人を虐殺した。この行為をとめられず根拠のないことを実行させてしまったのは、その行為に賛成したのではなく、反対しないで傍観したからで、傍観者が道筋をつくってしまったところに原因がある。

こういった歴史を伝えたことからヨーロッパ社会の最悪の条件を見て実感した。不況になると不満がふき出し、身を守るため傍観者になる。平和が大事、誰もがそう思う。その結果選択したのがこれだった。ようやくドイツのヒットラーではなく自分たちのせいだと気づいた。今ヨーロッパは具体的にどういう社会をつくっていくかを真剣に考え始めている。周りを囲んでいる人々の意識で雰囲気をつくり、やめさせることができる。今日も北朝鮮問題がクローズアップされている。

社会的な心理や、なんのために勉強をするのか、今日のテーマから関心をもって考えてもらいたい。これからは他民族他文化でバランスをとった世界に入って行く。今日は、悪い面ばかりにふれたが、社会のバランスをとっていくことでいいこともたくさんある。人間の可能性を信じていると結んだ。

講演終了後、元帝国海軍特攻隊員であった人から「本当にユダヤ人に責任はなかったのか？」などの質問が出るなど、熱い雰囲気のなかで講演会は終了しました。

（文責：地域連携センター長　家本博一）